

## 2022年度認定審査サマリーレポート

JABEEの認定・審査は、正会員61専門学協会の協力を得て、認定分野ごとに置かれた16の分野別審査委員会及びJABEEの認定・審査調整委員会による審議・調整に基づき実施されています。プログラム（本レポート本文末尾の注参照）の審査は、各分野別審査委員会から推薦され、認定・審査調整委員会が承認した審査チームによって行われます。その審査結果は、分野別審査委員会における分野としての審議・調整の後、認定・審査調整委員会において全体の審議・調整を行い、最終審査報告書としてまとめられます。最終審査報告書は認定会議で審議・決定した後、理事会の承認により確定し、申請プログラムに送付されます。

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、新規審査と予備審査を除く大部分の審査の完了を2021年度末まで持ち越すこととしました。これを受け、その後の各年度の審査も下記1.(1)項記載の暫定スケジュールと同等のスケジュールにて、2024年度まで継続する予定です。2022年度は、2021年度申請プログラムのうちの認定継続審査、中間審査、並びに2022年度申請プログラムのうちの新規審査、予備審査及び下記1.(2)項記載の特別措置に基づく一斉審査を合わせて約60件の審査を実施しました。

### 1. 2021年度／2022年度認定審査結果

#### (1) 審査方針及び結果概要

2022年度は2021年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対策として以下により審査を進めることとし、JABEEウェブサイト

[https://jabee.org/accreditation/basis/examination\\_doc](https://jabee.org/accreditation/basis/examination_doc)

で公表しました。

##### ① 暫定的な審査スケジュールの適用

「2022年度申請プログラムの認定・審査スケジュールと審査方針について」

##### ② 実地審査は原則としてWeb審査により実施

「審査のガイドライン（新型コロナウイルス対策のための暫定的対応）第3版」

##### ③ 「建築分野に関する審査のガイドラインの補足」

この方針に基づいた審査の結果、2021年度に申請のあった審査のうち認定継続審査及び中間審査45件、2022年度に申請のあった審査のうち新規審査5件、認定継続審

査 9 件のプログラムがそれぞれ認定されました。また、予備審査により 1 件のプログラムが暫定認定されました。

また、上記のコロナ禍における暫定的な審査スケジュールを踏まえた一斉審査化特別措置等により、コロナ禍前は 10%～20%台であった当該年度の全認定プログラム数（予備審査を除く）に占める一斉審査対象プログラム数の比率は、2021 年度が 43%、2022 年度が 56%と増加しました。

2022 年度に認定されたプログラムの審査は 158 名の審査員によって審査が行われました。また、24 名の審査員候補者が、審査研修員として審査に参加しました。審査員・審査研修員 182 名のうち産業界の経験者は 76 名（42%）でした。

2001 年度の認定事業開始から 2021 年度までの認定プログラムの累計は、海外のプログラムを除き 174 教育機関の 521 プログラムとなりました（図 1、表 1）。このうち 99（57%）の教育機関では複数のプログラムが認定されています。また、認定プログラムの修了生は累計で約 34 万人に達しています。

一方、認定継続の辞退による認定プログラムの減少は、2022 年度も同様に続いています（図 2）。今後も認定を継続していただくための対策を引き続き検討し、実施していきます。

## （2）同一教育機関の複数プログラムに対する特別措置

2020 年度から 6 年間、同一教育機関の複数プログラムの審査が 2 年度連続する場合については、その対象となるプログラムの審査を他のプログラムとともに 2 年目の年度に一斉審査として行う特別措置を実施しています。この措置が適用されたプログラムは、2021 年度認定対象プログラムのうち 5 プログラム、2022 年度認定対象プログラムのうち 3 プログラムでした。

## （3）審査員研修会

審査員研修会は集合形式の研修会をすべて中止し、オンラインでの研修としました。従来は毎年 7 月に実施していましたが、コロナ禍における審査スケジュールの変更により年に 2 回審査員を編成することに対応するため、2021 年度から 2 回のオンライン研修会を実施しており、2022 年度は 2022 年 8 月 19 日と 2023 年 3 月 10 日に実施しました。また、同時期に JABEE が契約している Web 講習サイトの「学び〜と」に審査員向けの教材を用意して受講していただきました。分野が主催する審査員候補者の導入研修会（審査講習会）は 2 回開催されました。

#### (4) 国立高等専門学校校の審査方式の確立

国立高等専門学校校機構（以下、高専機構と呼ぶ。）は高専本科に対するモデルコアカリキュラムの設定と、それに基づいて各高専本科が実施する教育内容を外部評価機関が評価し、質保証する仕組み（国立高専教育国際標準：略称 KIS）を構築しました。JABEE と高専機構は 2020 年より共同委員会を設置して、JABEE による KIS の質保証システムとしての評価・認証と JABEE の認定・審査への活用を検討し、その合意内容は、2022 年 3 月 1 日のプレスリリースで公表され、次の趣旨に基づき具体的な対応が進められました。

- ① 日本工学教育協会が高専機構の KIS を審査し、JABEE はその審査が高等教育の専門分野別第三者評価として適切であることを確認して認証する。
- ② ①で KIS が適切であることが認証されたら、JABEE が実施する各国立高専を対象とするプログラム審査（本科 4、5 年及び専攻科で構成）にて、本科部分については KIS による評価結果を大幅に活用することで受審プログラム／審査員双方の負荷を軽減させる。

これを踏まえ 2022 年度は 2022 年 9 月に JABEE 内に新設した KIS 認証評価委員会で KIS レビューチームを編成して認証評価を開始し、2 校で実施された KIS 認定の実地評価を視察しました。2023 年 3 月に KIS 認証評価委員会を開催して判定を行い、4 月に理事会の承認を得る予定です。また、KIS 評価結果を対象国立高専プログラムの JABEE 認定・審査に活用するため、審査チーム向けワークショップを 3 月に開催しました。

## 2. 国際関係

### (1) 海外認定プログラム修了者に対する技術士第一次試験免除の取り扱い

ワシントン協定は加盟団体に対して、自国の技術者資格の取得の条件を他国の認定プログラム修了者にも同等に適用するよう各加盟団体が国に働きかけることを求めています。これに対応した文部科学省、日本技術士会、JABEE の三者間合意に基づき、2021 年度からは JABEE が海外で認定したプログラム、2022 年度からは海外のワシントン協定加盟団体が認定したプログラムの修了者へ技術士第一次試験免除の適用が拡充されました。

### (2) インドネシア技術者教育認定団体 (IABEE) 設立支援

JABEE は、インドネシアに技術者教育認定団体 (IABEE) を設立して認定制度を立ち上げるための国際協力機構 (JICA) の支援事業に関して、予定されていた 5 年間 (2014 年 11 月～2019 年 9 月) の作業を完了し、当初の目標であった IABEE のワシントン協定への暫定加盟を実現しました。その後 IABEE からの強い要望があり、ワシントン協定へ正式加盟するまでの支援延長が決定しました。ワシントン協定へ正式

加盟するまでの支援延長を行った結果、2021年10月にWebによる審査（Virtual審査）が実施され、2022年6月のワシントン協定総会で正式加盟が認められました。ただし、Virtual審査に基づく決定であるため、条件付き加盟となっています。2023年2月に実地確認が行われ、6月のワシントン協定総会で条件なしの正式加盟が認められる予定です。その結果、JICAのIABEE設立支援プロジェクトは8月をもって終了することとなります。

### 3. 広報・普及活動

#### (1) 公式 SNS の設置と情報発信

従来は、ウェブサイト、パンフレット、メールマガジンを主な情報発信手段としていましたが、新たな手段として SNS を連携（Twitter）させて、JABEE の活動を理解してもらうための記事や用語の解説及び最新のトピックスなどをなるべくこまめに発信する方針とし、2022年7月より発信を行っています。

#### (2) 学会、省庁、企業関係者等への広報活動

JABEE の状況を知っていただくために、北陸信越工学教育協会主催の講演会「エンジニアリング教育の認定動向と JABEE」（10月）や、中央教育審議会・大学振興部会での「出口の質保証」に関するヒアリング(11月)にて説明を行いました。

また、農業農村工学会、日本機械学会、電気学会、日本地質学会など専門分野主催の JABEE シンポジウムが開催された際に、受審校や審査員などの関係者に審査に関連する情報提供や認定プログラムの紹介などが行われました。

さらに、技術者教育と技術士の関係が深いことから、日本技術士会とともに大学を訪問し技術者教育と技術士に関する説明会を行うとともに、技術士の IPD（初期専門能力開発）、CPD（継続研鑽）との関連で日本技術士会主催の IPD 懇談会に委員として参加し、JABEE の認知度向上につとめています。

そのほかにも、高専や大学などの高等教育機関や JABEE の正会員や賛助会員の企業や団体も訪問しました。

#### (3) ワークショップの開催

JABEE は 2012 年から公益社団法人日本工学教育協会との共催で「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ」を毎年開催してきました。2021 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、グループワーク中心の集合形式のワークショップの開催は見送っていましたが、2022 年度は開催することとし、2022 年 12 月 10 日と 2023 年 3 月 6 日に JABEE と日本工学教育協会との共催によるワークショップをハイブリッド（会場およびオンライン）開催しました。本ワークショップでは大学

のDXの全体像と教育の質保証や学習者本位のデジタル技術の本質を理解し、学習や教務におけるデジタル技術の具体的な適用方法がメインテーマとなりました。

#### 4. 認定プログラム修了者の技術士資格取得状況

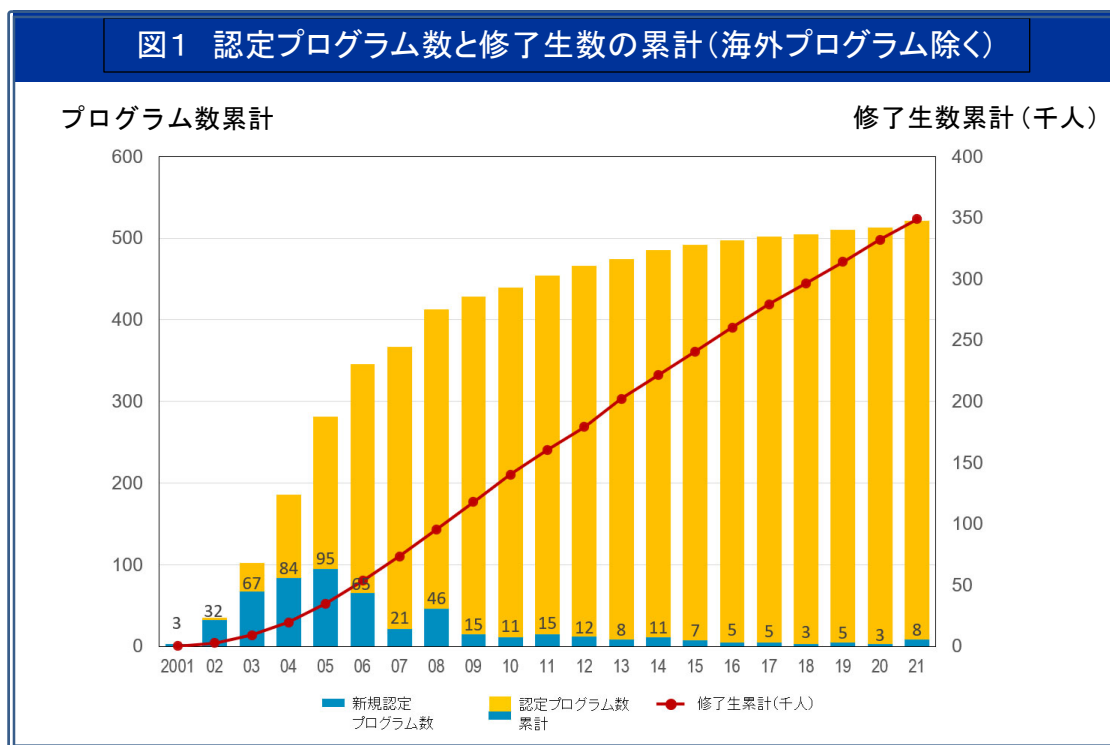
JABEE認定プログラムの修了者（以下、修了者と呼ぶ）は修習技術者（技術士第一次試験合格と同等）となります。修了者の修習技術者が、2008年度に技術士第二次試験に初めて合格し、技術士の資格を取得しました。それ以降、修了者の合格者は順調に増加しています。また、初期は修了者が若年であったため低かった合格率も年々向上し、2022年度の第二次試験の結果では、受験者全体の合格率をわずかながら上回っています（図3）。

2022年度の修了者の合格者は493名で2021年度より13%増加しており、全体の合格者に対する修了者の割合としては、18.7%となっています。さらに年代別で見ると20代の54%、30代の41%、40代の3.2%（40歳以上の修了者はまだ極めて少数のため、合格者はほとんどいません）が修了者となっています。合格者の平均年齢は全体で42.8歳であったのに対し、修了者は33.2歳でした。また、通常の大学卒業年齢で修習技術者となった後技術士第二次試験を受験できる最年少（26歳）の合格者は全体で30名ですが、そのうちの21名（70%）は修了者でした。

以上のように、JABEEの認定が若い技術士を生み出すための推進力の1つとなっていることが分かります。

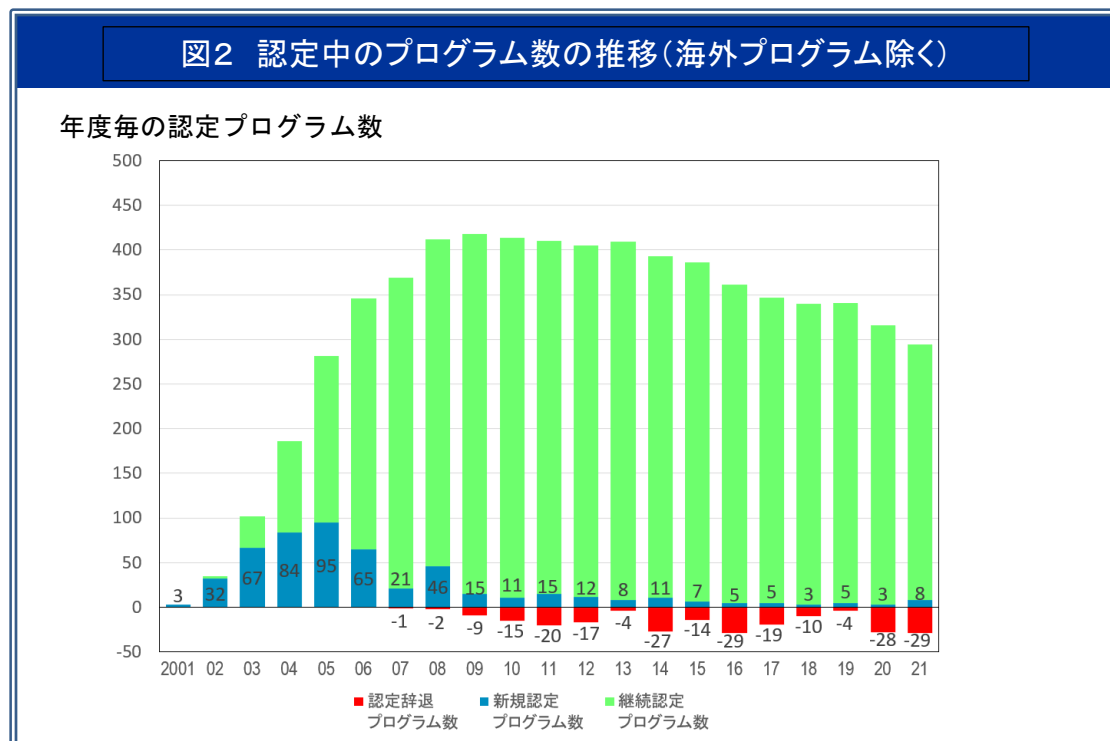
注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科やコースなどの総称です。

図1 認定プログラム数と修了生数の累計(海外プログラム除く)



注：2022年度はまだ審査が完了していないプログラムがありますので、結果は2023年度のサマリーレポートで報告いたします。

図2 認定中のプログラム数の推移(海外プログラム除く)



注：2022年度はまだ審査が完了していないプログラムがありますので、結果は2023年度のサマリーレポートで報告いたします。

表1 教育機関種別認定プログラム数 [学士、修士]  
2001-2021 累計及び 2021 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]

教育機関種類	教育機関数	プログラム数
国立大学	54 (49)	240 (125)
公立大学	10 (5)	24 (6)
私立大学	56 (47)	169 (119)
高等専門学校(専攻科)	53 (31)	87 (43)
大学校	1 (1)	1 (1)
< 合計 >	174 (133)	521 (294)

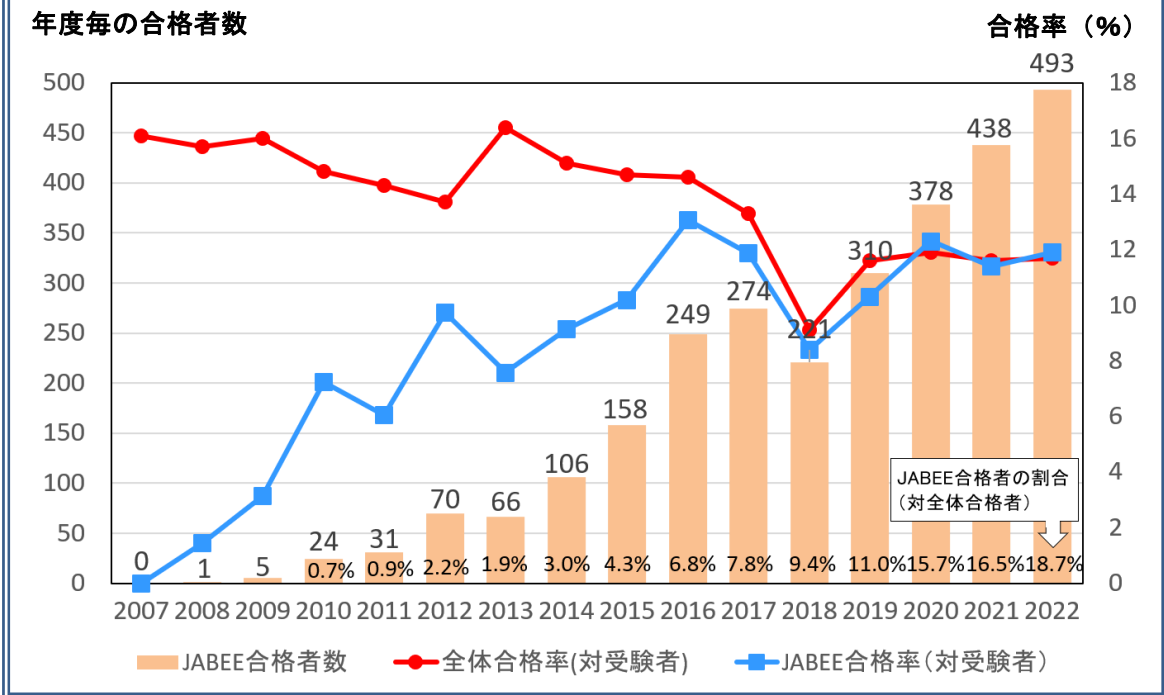
認定プログラム数累計、ただし ( ) 内は 2021 年度時点の認定プログラム数

表2 分野別認定プログラム数 [学士、修士]  
2001-2021 累計及び 2021 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]

分野	2001-2021 累計(現在)
化学および化学関連分野/化学及び関連のエンジニアリング分野	55 (18)
機械および機械関連分野/機械及び関連の工学分野	87 (47)
材料および材料関連分野/材料及び関連の工学分野	15 (7)
地球・資源およびその関連分野/地球・資源及び関連の工学分野	11 (8)
情報および情報関連分野/情報専門系学士課程(CS、IS、IT・CSec、情報一般分野)	44 (18)
電気・電子・情報通信およびその関連分野/電子情報通信・コンピュータ及び 関連の工学分野/電気電子及び関連の工学分野	65 (35)
土木および土木関連分野/土木及び関連の工学分野	68 (56)
農業工学関連分野/農業工学及び関連のエンジニアリング分野	19 (13)
工学(融合複合・新領域)関連分野/工学(融合複合・新領域)及び関連の エンジニアリング分野	64 (33)
建築学および建築学関連分野/建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野 建築系学士修士課程(建築設計・計画系分野)	46 (30)
物理・応用物理学関連分野/物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野	6 (4)
経営工学関連分野/経営工学及び関連のエンジニアリング分野	6 (3)
農学一般関連分野/農学一般及び関連のエンジニアリング分野	13 (11)
森林および森林関連分野/森林及び関連のエンジニアリング分野	5 (3)
環境工学およびその関連分野/環境工学及び関連のエンジニアリング分野	8 (3)
生物工学および生物工学関連分野/生物工学及び関連のエンジニアリング分野	9 (5)
総計	521 (294)

認定プログラム数累計、ただし ( ) 内は 2021 年度時点の認定プログラム数

図3 技術士第二次試験合格者数／合格率の推移



- 注1：「JABEE合格者数」は、技術士第二次試験に合格したJABEE認定プログラム修了者の数を表す。  
 注2：「JABEE合格率」はJABEE認定プログラム修了者の技術士第二次試験の合格率（受験者中の合格者の割合）を表す。  
 注3：「全体合格率」は技術士第二次試験の全受験者の合格率を表す。